

特集「旅について」

特集「旅について」原稿募集に、多くの会員の皆さまからお寄せいただき、ありがとうございました。

旅にはひとりひとりの想いが詰まっています。

国内の旅、海外の旅、ひとり旅、誰かと行く旅、青春時代の旅、テレビ旅、機上旅、思い出に浸る旅、これから計画する旅、お気に入りの場所…。それぞれの旅をどうぞ一緒に。

◆年賀状に「また、会いたいね」と何年も同じことを書いていることにうんざりし、8年前、84歳の父の手をつなぎ、幼なじみが住む「美しき五月」のフランクフルトへ渡航した。我ながらタフで、無防備なチャレンジができた時であった。

父は鬼籍に入り、私は現役を終え、新たな生活を受容しながら、また繰り返し書き込む年賀状。いつ燃るか、私のやる気スイッチ。次回は「黄金の10月」だ。

(遠藤恵美子)

◆40年以上も前、友人らと自転車旅行をしました。宮城蔵王遠刈田と山形蔵王温泉にそれぞれ一泊し、蔵王エコーライン、関山峰を越える二泊三日の小旅行だった。

当時まだ盛んだったユースホステルに泊まり、他愛のない話をして夜を過ごした。

◆40年後、友人らと自転車旅行をしました。宮城蔵王遠刈田と山形蔵王温泉にそれぞれ一泊し、蔵王エコーライン、関山峰を越える二泊三日の小旅行だった。

◆毎日夕方になると各家庭では家事がストップしてみんなが番組に聞き入った。銭湯はがら空きになるほどテレビの前に釘付けになつたものだつた。あの著名な井上ひさしさんの作品「ひよっこりひようたん島」であった。作品から受け止めるのは、あたたかい人間観と作品からくるユーモアと深い人間考察であった。ひさしさん本人の人柄と実績が生かされたことは周知のごとくである。(真壁雄二)

◆人は知らない土地を旅して風景風味風土の三つの風を感じ、物語箱にしまっておきたいと思う。だがコロナ禍のニュースでは三密ダメ外出自粛等で巣ごもりの日々から机の上で西行の歌を見つけた。「風になびく富士の煙の空に消えてゆくへも知らぬ我が思ひかな」砂金寄進を請う平泉への旅の途中で無いが叶うのか否か? 当時の心境を想像しながら令和秋の野田の玉川をマスク姿で歌の旅をした。(宗田淳)

◆コロナで人と接触を避け、恋人とだけ、国内旅行を楽しむ。そして、同居。これを機会に海外で熟年結婚すべく式を挙げたいな」と海外旅行に関する情報をチェックしたら、まだコロナで欠航があることに気付いた。海外事情をチェックしながら、海外で挙式をし、海外旅行を楽しみたい。海外でしか知らない文化をこの目で知りたい。(モンブラン)

◆旅行機会の少ない私共夫婦ですが、思い出の旅はコロナ前に何度も神奈川に住む息子夫婦を訪ねた際の鎌倉見物です。自分の足では回りきれないでの贅沢し

感がある「青春」そのものである。

(小田部晃二郎)

◆一年余り住んだ京都を去る前日、目的もなく奈良を訪ねた。五月の斑鳩の里を歩き、法隆寺右の中宮寺に入ると、小さな本堂に觀音の姿があった。何気なく見ていたが、見れば見る程吸い寄せられていく。そして、体の中を澄んだ水が音もなく流れていくのだ。その時(あ、俺は生きられる)という思いが湧き出てくるのを感じた。20代前半の迷路の中で。

(菊田郁朗)

◆我が家旅の主導権は奥様が握っています。「ハイ!○月○日は○○へ行きます」有無を言わさずです。計画もお金もすべて奥様です。私は樂ですよ。私は雑誌やDVDで世界遺産は全て知っています。がまるで初見であるかのように振る舞いました。旅には氣力と体力が必要です。若き日に行つて良かったと妻は言っています。これまでの旅は私と妻との間に何かを残していると思います。

(阪本昭恵)

◆私は今時珍しい旅行嫌い。殊に観光地巡りは嫌い。海外へ行くなどもめんどう。だが一度だけパリへ飛んだ。娘が高校を卒業した年、いきなりパリに留学すると何年も経つた今も、宝物の思い出です。

(山下二)

◆人生80年を越して一番心に残っている旅は初めての外国オランダ旅行―花の旅です。其働きと子育てを終えて出かけ立派な鎌倉彫は買えなかつたけれど、

(J・W)

◆日帰りで名古屋まで行つたことがありました。その後も主人とあちこちの国へ行きました。それがゆつたりと回る風車と共に今まで光景が鮮やかに浮かぶ旅でした。

(渡辺弥生)

◆オトキユウ(JR大人の休日俱楽部パス)を使って10数年ひとり旅をしてきた。以前は欲張つてここもあそこもと見て回つたが、最近は行きたいところをひとつ決めて、帰れるものなら日帰りする。疲れたら次の日は休養にし、また出かけられる。いまはのんびりゆつくり。それが楽しい。何度も訪れて癒されるのが東京の「朝倉彌彌館」だ。座敷に座つて中庭を見ていると心が落ち着く。

(H・I)

◆子どもが低学年の時に出会つた7人でジャムの会と名付けた読書会をやつてい。月1度5千円会費は年に6万円となり、その予算で旅に出るようになつたのは子どもの手が離れた頃。快く送り出し

てくれる家族に感謝し、いつしか空飛ぶ

宣言し、勝手に実行した。さすがに心配になります。次の年に偵察をかねて。ホテルはマレ地区。そこから歩いて10分の所にセヌ川がある。木陰に腰を下ろし川の匂いと風の匂いを味わう。ホームレスが豪快にゴミを捨てる。これでもう十分。

(佐藤通雅)

◆最近、越後湯沢に在る作家吉村昭の墓を訪ねた。墓石に「悠遠」の文字が刻まれている。ここに、墓を設けることに異を唱えた妻。「雪の下は温かい」と夫吉村昭は折れなかつたとか。墓誌に妻で作家の「吉村節子」の名が刻まれている。朱

字で。無名の頃、東北、北海道へ行商の旅に出ていた夫婦のことが、ふと思いつきました。ようやく会えた:何か親近感が湧いてくる、作家の墓をめぐる旅だ。

(其田敏美)

◆プラハでの楽しい旅も終る頃、川沿のホテルでお茶を注文した。ウエイトレスに「あの川がモルダウ?」と尋ねると笑顔がサッと消え「ノン。ヴルタヴァ」と激しく否定され驚いたことがある。チエコがナチスの占領下にあつた時ドイツ名

モルダウと改名された事實を迂闊にも知らなかつた恥かしさ。カレル橋の下を滔々と流れるヴルタヴァ川にスマーナも

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆JR宗谷本線に乗つた。私が樂しみにしていたのは「塩狩駅」。高校時代に「塩狩峰」を読んで感銘を受けて以来、いつか行ってみたいと思っていました。おまけに前日に旭川の三浦綾子記念文学館で予習済み。しかし、あつという間に通過。

◆JR宗谷本線に乗つた。私が樂しみにしていたのは「塩狩駅」。高校時代に「塩狩峰」を読んで感銘を受けて以来、いつか行ってみたいと思っていました。おまけに前日に旭川の三浦綾子記念文学館で予習済み。しかし、あつという間に通過。

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆県内の名所旧跡を訪ねる「小さな旅」を行つた。事情があり毎月出かけた時もあります。4回接種したからと安心は勿論しない。気仙沼が近代的な都市に生まれ変わった。以前出かけた小旅行の思いが大きいほど、「旅への誘い」は大きい。

(多田緑)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ことができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました。大島よ。永久に雄々しさが近づいています。

(豊島光喜)

◆母の故郷、氣仙沼大島。この7月15日、氣仙沼から嫁にきた継母が97才で旅立ちました。お見舞いに訪れるといつも「気仙沼の友に会いたい」と私の手を握り、何度も語りかける母でした。大島の村長さんの友と同級生で親しかったことを最近知ることができました。そして地元の童謡詩人水上不二との出会いも母はつくつされました